

寄稿「ふれあいもちつきに初参加！」

力になれる存在に



書記局 世良砂湖

今回、第30回を迎えたふれあい餅つき大会に初参加しました。

学園の方の「卒園生の人から『今年もそろそろもちつきのシーズンやね』という言葉が聞かれるほどになりました」というお話に、30年の歴史を感じました。

退職者の会の外竹さんの強力な指導の下、午前中は青年部員と寮生さんたちが、もちつきを楽しみました。中には最初から最後までもちつきに汗を流す、物凄い体力の寮生さんもいてびっくりしました。

最初は乗り気でなかった人が、「やってみる！」と言って餅をつき始めるのを見るのは、気が満ちていくようで楽しかったです。まだ小さい人が大きな声で「イチ、ニー！イチ、ニー！」と応援する声が響き、可愛くてなりません。お昼は学園のみなさんが作ってくださったうどんやおでんで体



を温めました。

午後は年少の子どもさんは紙芝居、高学年の人はドッジボール大会、就職や進学を控えた人は座談会と3つに分かれ過ごしました。

紙芝居の部屋では、ふだんは女性の先生が読んであげる紙芝居をお兄さんがチャレンジするとあって、子どもたちにとってはいつもと違った楽しみのになったそうです。

大人げなくマジになる全港湾！

ドッジボール大会は「毎年、全港湾が負けているので、今年は本気になってやるように！」と気合を入れて始まり、双方全力で投げる、当てる、受ける、逃げる、また投げる・・・と汗を流しました。全港湾チームがだんだんと本気モードになるほど寮生チームは強く、むきになってボールを投げる大人たちの姿に、大笑いでした。

きっと、チカラに

座談会では、就職や進学を控えた人たちとお菓子を食べながらお話ししました。わたしは女子寮生の人と話をするために参加した3人の女性組合員のうちのひとりです。

寮生さんからは、「自分の好きなことだけを仕事にできたらいいけど現実には無理」「セクハラってブスでもされるん？」「パワハラとかモラハラがあるのはドラマで知ってる」「わたしは就職せずにお嫁さんになる！」といったような話が出てきて、それにどう答えるのか、48歳のわたしとしては一つひとつ考えさせられました。実は行事の終わった今でもずっと考えているのです。

寮生さんは他の業種についている方からお話を聞いたり、職場に社会見学に行ったりすることもあるそうです。その話を聞きながら、私たちは労働組合という点から、「みんなが仕事をして困ったことがあったら、学園の先生や学校の先生以外にも力になってくれる人がおるで！」ということをメッセージとして伝えるのもいいのではないかと思います。「餅つきに来る兄ちゃん、おっちゃん」というだけではなく、「その人たちがやっている労働組合」という存在を少しでも頭の片隅に置いてもらえたら、いつか寮生が働くようになったときに、力になれる日が来るかなと思うのです。

第293号 2015年12月24日



発行
大阪市港区築港1-12-27
全日本港湾労働組合関西地方大阪支部
発行責任者 林 繁 行



アジアへ安倍強権の弊害

書記次長 小林勝彦

国家による屈曲された歴史認識により友好関係に亀裂が入った日中関係を労組間で交流し、過去の過ちを二度と繰り返さないよう、「日中不再戦の誓いの旅」と称する、記念館・資料館での学習、慰霊式典で追悼するために参加しました。

日程は、12月10日、北京にて中国国際交流協会へ表敬訪問。11日、中国工運研究所長を講師に迎えての学習・意見交換会、故宫博物院視察。12日、盧溝橋・抗日記念館視察後、南京へ移動。13日、国家公祭（南京大虐殺犠牲者追悼式典）、追悼キャンドル祭に参列。14日、慰安婦旧慰安所記念館視察後、蘇州へ移動。15日、歴史的建造物視察後、帰阪しました。

私は、2年前の2013年11月に東アジア青年交流プロジェクトの一員として北京・抗日記念館を初めて視察し、日本語で書かれた展示物に「中国政府と人民は過去の憎しみにこだわることなく、未来に目を向け中日友好を積極的に促進

して行き……（中略）両国の先輩の指導者と各界の有識者の長期にわたるたゆまぬ努力で1972年に国交正常化が実現した。中国政府と人民は歴史を糧に未来を志向し世々代々友好的に往来するべき……」とあり感動しました。

しかし、今回の訪中で、展示物が一切無くなっている事を目の当たりにし、この間の安倍政権の中国のみならず、アジアに対しての強権的な発言や行動が国家間の不信となり、長い年月をかけ積み上げてきた友好が一気に過去へと逆戻りをしたと感じました。

初めての南京へ

また、初めて訪れた南京では南京大虐殺犠牲者追悼式典が、昨年からは**国家公祭**になり、（中国共産党の考えは「国家公祭日は、恨みを継続するためではなく、平和へのあこがれを喚起し、手をつないで平和で美しい未来を切り開くため」としている）、慰安婦旧慰安

所記念館が昨年11月に設立された事も安倍政権への不信の表れであると感じました。

友好は、過ちを認め、謝罪することから始まると私は思います。

歴史認識は重要な課題

私は、日本が犯した過ちに対し、人それぞれ感じ方の違いや重さの度合いは違うかもしれないが、悪いことに重い、軽いは無いと思います。われわれ自身の犯した過ちでは無いかもしれないが、先人たちの築いて来た数多くの功績と共に、過ちについても継承者として同じ過ちを繰り返さないためにも真に考え、反省し謝罪して行かなければ、次世代へと受け渡すことはできないと強く感じました。

この歴史認識に対して、労働組合の役割は非常に重要であると捉え、若い世代に伝えるために、私たちは国際問題・反戦・平和の学習を重ね、確かな取り組みをしていかねばならないと思います。

大阪支部ホームページ開設！



辺野古現地闘争へ緊急参加

平和的生存権と人権が抑圧される沖縄

執行委員 陣内恒治



12月4日から8日まで、沖縄県名護市辺野古の新基地建設の阻止行動に参加してきました。

今回は事前に予定していたのではなく、11月22日、奈良で行われた「翁長沖縄県知事の辺野古埋め立て承認取り消しを支持する奈良県集会」にて、沖縄平和運動センター議長の山城博治さんの講演会がありました。山城さんは「1000人集まれば辺野古の違法な工事は止められるが、300人では止められない」など現地状況を訴えました。

私は、日常、辺野古の現状を友人やフェイスブック、そして「辺野古に基地は絶対つくらせない大阪行動」のHPなどを通じて、確認していますが、山城さん当人から直接お話を聞くと、やはり現地で仲間とともに工事を阻止する行動が必要なんだと思い、居てもたってもいられなく急遽、辺野古に行きました。

ゲート前と海上行動 そして不当逮捕

5日は早朝の6時から、キャンプシュワブゲート前で埋め立て工事のトラックや、作業員の車両を止めるために座り込みに参加しましたが、東京からの機動隊130名と沖縄県警が、7時前に私たちの周りを取り囲みました。3重に隊列を組み、まるで私たちを犯罪者かのように威圧している。沖縄県民の意思を無視し、「こんな状態は間違っている」と全国から駆けつけてきた人たちの人権や平和を望む声を無視し、3～4人がかりで強制排除し、機動隊のバスで囲んだ中に拘束しました。この時は約100人で座り込んだが、30分もかからない時間で排除されてしまいました。

そして、第2ゲート付近が騒々しいので駆けつけると、機動隊員が私の前でいきなり「公妨！」と

何度も叫び、救出するために大勢でもみ合いになりながら道路を横断し、機動隊に囲まれ、その後1名が確保されました。その方はその前に拘束したことに対しての抗議をしていただけた市民です。

それから船長と辺野古の浜に移動し、私は「平和丸」に乗船しました。（この時、山城さんが拘束されたと連絡が入った。）船4艇、カヌー20艇を準備して、ボーリング調査している「やぐら」（掘削の際の足場を固定した台船）に近づき抗議しました。制限区域内といわれる周りには大型ブイが設置され異常な光景です。18時から不当逮捕された3名の釈放を求め、名護警察署前で抗議していましたが、19時すぎに3名の身柄拘束の延長が決定されました。

機動隊が頭突き！

船長が4針も縫うケガ！

6日、早朝の阻止行動後、カヌー

に乗る予定でしたが、不当逮捕された3名の釈放を求め、名護警察署に対して抗議行動を行ないました。午後から那覇地検に送致されると弁護士から連絡があり、3名は12時過ぎから1時間おきに地検に送致された。そのあとゲート前に戻り、工事車両が入らないか監視しました。16時過ぎからゲート前片付けをして、名護警察署前で抗議していると、20時に、釈放が最後になると思われた山城さんが釈放されました。あとの2名は勾留延長されたとの報告があり、翌日の行動提起をして解散しました。

7日の早朝は物々しいもので、機動隊のバスが倍くらい止まっていました。参加者も多かったが、拘束するためだろうか、それとも威圧のために止めているのだろうかと考えながら、座り込みをしました。

釈放された山城さんもすぐに復帰して、いつもの抗議行動をしていました。



機動隊は私たちを3重にとり囲み、2列目に座り込みしている私を強制排除しようとし、私は周りの仲間とスクラムを組んで抵抗していましたが、「年配者が怪我をしないように」と言われていたので暴れずに拘束されました。その時に、私と共に行動してくれているN船長が救急車で運ばれるところに遭遇しました。何があったの

か分からず、聞くと機動隊員に頭突きをされ顔の頬を4針縫うケガを負わされた。機動隊は国家体制を守るため、リゾートホテルに宿



泊し、日常的に暴力や暴言を繰り返している。暴力は許さないと抗議し「機動隊は帰れ！」とゲート前でデモ行進を行いました。

8日、早朝阻止行動のあと、辺野古浜で挨拶をしました。そして、名護警察署前で準抗告した2名の釈放を望みながら、帰阪するギリギリまでいましたが、高速バスで那覇空港へ向かいました。空港に到着するくらいに1名が釈放されたと連絡がありましたが、あと1名は拘束されたままでした。

辺野古を守る仲間たち

今回は5日間しか参加できませんでしたが、ゲート前で送迎車の運転をしたり、現場をまとめているリーダーの一人でもある建設支部の宮崎さんも早朝から日が暮れるまで休む暇がないくらい頑張っています。

また、全国から辺野古のことを知り、埼玉から団体で来た労組の人びと、最初はそんなに関心がなかったが、沖縄に引っ越してきた北海道出身のJ君、東京から一人でできている女性、港湾の仕事で世

界を回っていたS君、京都からもゲート前や各地で、歌の力で平和を訴え、歌い続けているKさん、生野区からもK君が、フェリーで

50ccバイクを持参し、座り込みに参加しています。こんな人たちと新しい出会いがありました。みんなが「辺野古を守りたい」と体を張って頑張っている。

阻止行動のやり方も毎日のように変化している。2005年に座り込みなどしていた時から、頑張っている女性も、現在は船長になり、辺野古の海を守っています。

私たちがやるべきこと

今、辺野古の現場、県民が工事を止めたいと思ってはいても、ゲート前や海上行動も人数がいなければ工事を止められません。全国各地でも反対運動を頑張っているが、現地では毎日、誰かが救急車で運ばれるほどの酷い状況です。

沖縄では、翁長知事も稲嶺市長も奮闘しています。私たちは、このように強権的な安倍政権に対して声を上げ、労働法制改悪、戦争法を破棄、辺野古新基地建設阻止を全国で拡げていく行動をする役割があると思います。民意を反映させ、現地派遣も含め、辺野古新基地建設を止めよう！